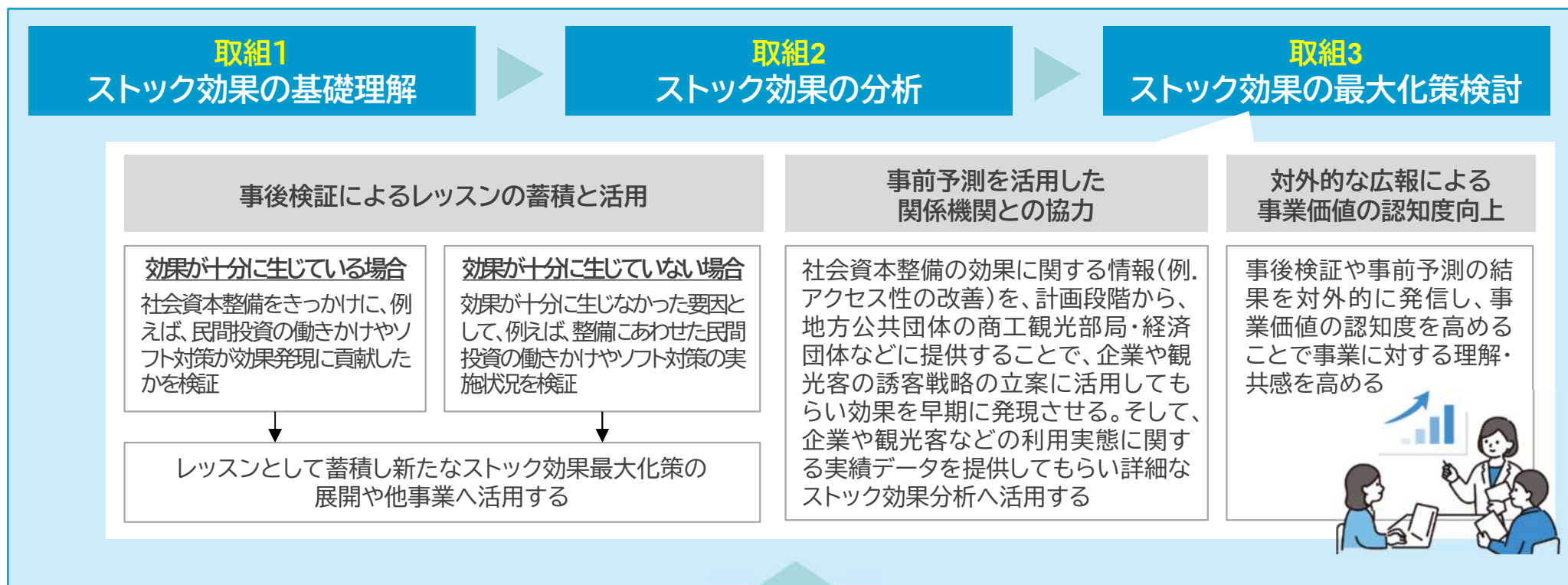


SPIVE(スパイブ)とは？

- 産学官連携インフラ戦略推進プラットフォーム(Strategic Platform for Infrastructure Value Enhancement／SPIVE:スパイブ)は、社会資本整備のストック効果を最大限高めることを目的に地方公共団体などの職員の「3つの取組」を充実化するために「2つの支援」を行います。
- 将来的には、地方公共団体などの職員同士の事例・ノウハウ(事後検証によるレッスンの蓄積や事前予測の活用の有効性など)の共有などの横展開も行います。



地方公共団体などの職員の3つの取組を支援！

支援1 職員研修

ストック効果最大化を念頭に効果の全体像をどのように把握・分析し考察すべきかについて研修する



支援2 分析支援

個別事例のストック効果の分析方法や考察・解釈の仕方に関する技術的なアドバイスなどを行う

SPIVEの構成員と関係性

- SPIVE(スパイブ)は、産学官の連携により、「効果を出す」ためのストック効果の分析、最大化検討に関する人材育成と技術的助言を行うプラットフォームです。国土交通省が「インフラ戦略推進サポーター」を選任・公表し、地方公共団体などの職員を対象に支援を行います。

インフラ戦略推進サポーター

① 研修サポーター



- 職員研修の講師は国土交通省職員、委託先のコンサルタントもしくは専門知識を有する有識者が担う
- 講師はアドバイザリーボードの承認を受けた研修資料を用いて研修を行う

② 分析支援サポーター



- 学識経験者、民間企業職員、地方公共団体職員、非営利活動団体職員を対象に公募しアドバイザリーボードにて選任する
- 選任者はアドバイザリーボードからの講習を受けて支援を行う

研修実施
分析支援

研修資料のチェック

サポーターの選任
サポーターへの講習

地方公共団体などの職員

- インフラ政策に携わる地方公共団体などの職員はプラットフォームのサポーターに依頼し分析支援などを受ける

将来的には、地方公共団体などの職員同士の事例やノウハウの共有などの横展開も行う

インフラ戦略推進アドバイザリーボード

朝日 ちさと	東京都立大学 都市環境科学研究科都市政策科学域 教授
河端 瑞貴	慶應義塾大学 経済学部 教授
小池 淳司	神戸大学大学院 市民工学専攻 教授
中川 雅之	日本大学 経済学部 教授 ※座長
中東 雅樹	新潟大学 経済学部総合経済学科 准教授
小林 正典	国土交通省総合政策局 社会資本経済分析特別研究官
西山 茂樹	国土交通省総合政策局 社会資本整備政策課 課長
三善 由幸	OECD起業・中小企業・地域・都市局 局長室上級参事官

【役割】 研修資料のチェック、分析支援サポーターへの講習、分析支援ニーズをふまえた分析手法の検討など

支援1 職員研修(研修サポーター)

- 職員研修では、ストック効果の基本概念を説明した後、「①ストック効果を伝えるターゲットと伝え方」、「②ストック効果の分析手法」、「③ストック効果最大化策の検討方法」の3つのポイントに焦点をあてて説明します。
- 職員研修の講師は国土交通省職員、委託先のコンサルタントもしくは専門知識を有する有識者が担います。

職員研修で伝える3つのポイント

① ストック効果を伝えるターゲットと伝え方

- 社会資本整備が社会経済活動へ与える**幅広い効果の波及過程を具体的に可視化**する際の考え方としてロジックモデル(右図)の作成方法を学ぶ。
- ロジックモデルで示した各効果の要素の**受益者が誰であるか**、各要素は定量的に計測可能か、もしくは定性的に把握可能かを明確にしたうえで、分析対象事業のストック効果の分析方針として、**誰に対して、どの効果をどのように伝えるべきか(定量or定性)**についての検討方法を学ぶ。

② ストック効果の分析手法

ストック効果の定量的な分析手法として、**有無比較法(経済モデルを用いたシミュレーション)**、**前後・地域間比較法(統計分析)**について、手法の特徴と利用方法を学ぶ(右表)。**簡易な分析方法から高度な分析方法までニーズに応じて分析手法**を示す。また、定量的に分析困難であるものの、定性的な効果発現が期待される場合のアンケートやヒアリングなどを用いた分析方法、効果発現のメカニズム・筋道(ナラティブ)を明確にする際の考え方を示す。

③ ストック効果最大化策の検討方法

事後検証によるレッスンの蓄積と活用方法、事前予測を活用した関係機関との協力の方法、対外的な広報による事業価値の認知度向上に関して、具体事例・イメージを示しながら、ストック効果最大化策の検討方法を学ぶ。

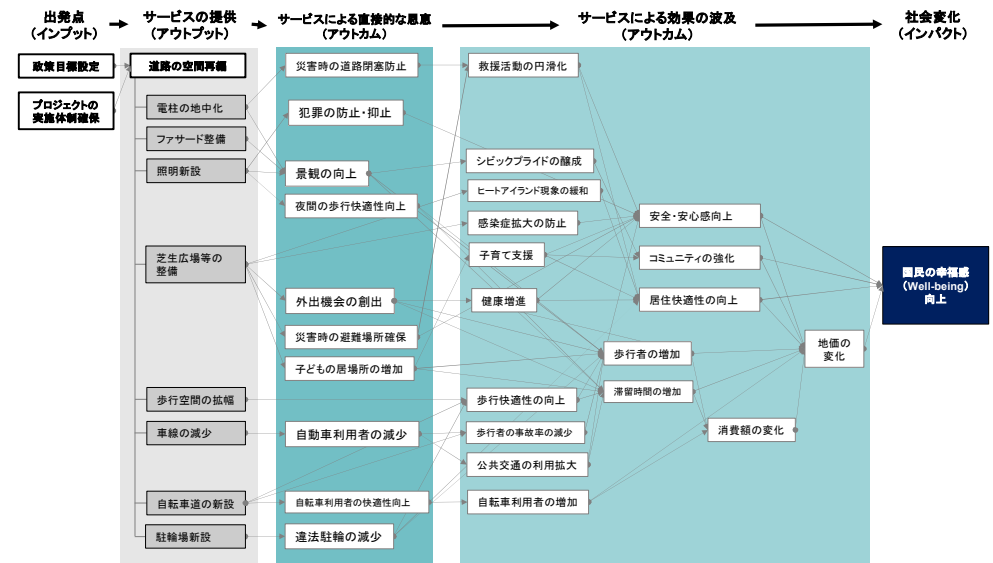


図 道路空間再編に関するロジックモデルの作成例

表 定量的な分析手法

分析手法	分析内容
有無比較 (経済モデルを用いたシミュレーション)	ある1時点で、インフラを整備した場合と整備しなかった場合を比較し、効果を示す。
前後・地域間比較 (統計分析)	社会資本整備前後・地域間の相違を効果として示す。

支援2 分析支援(分析支援サポーター)

- 分析支援は、国・地方公共団体などが個別事例を対象にストック効果分析を行うための分析手法や分析結果の示し方・解釈の仕方(ストック効果最大化のためのレッスンの蓄積の仕方など)について技術的なアドバイスをを行います。
- 分析支援サポーターは候補者を公募し、アドバイザリーボードの承認を受けて選任します。

分析支援のイメージ

① 個別事例に対する支援

- 国・地方公共団体などが個別事例を対象にストック効果分析を行うにあたり、**どのようなデータや分析手法が有効か、分析結果の示し方・解釈の仕方(ストック効果最大化のためのレッスンの蓄積の仕方など)**はどのようにすべきかを**技術的側面からアドバイス**するとともに、他地域の取組事例などを情報提供する。
- ただし、具体的な数値解析や資料作成などが必要な場合は、別途、支援を依頼する機関から業務発注などを行うものとし、本支援の枠組み内での対応は行わない。

② 分析に必要なデータの紹介・提供

- ニーズに応じて、ストック効果分析に必要となるデータについて情報提供などを行う。
- 例えば、「マイクロデータ(調査票情報)」を用いた分析の有効性などを紹介し、総務省が運営するマイクロデータのポータルサイト(miripo)などを利用し、データ入手(申請)の支援を行う。
- 国土交通省が保有するデータについては、提供可能データを積極的に提供し活用いただく(右図は活用例)。



図 物流センサス(全国貨物純流動調査)による地域間の貨物流動の可視化例

分析支援サポーターの選任から支援までの流れ

アドバイザリーボードによる分析支援サポーターの選任

- STEP①:国土交通省総合政策局社会資本整備政策課が分析支援サポーター**候補者を公募**。
- STEP②:候補者が「**インフラ戦略推進サポーター要件**(ストック効果分析に関する業務実績、査読付き論文実績など)」に合致する者であるか否かを調査。
- STEP③:アドバイザリーボードにおいてサポーターを選任し、**各サポーターの専門分野・実績などを国土交通省ホームページで公開**。

分析支援サポーターによる支援

- STEP①:地方公共団体などの組織は、国土交通省ホームページから、支援を依頼したい**サポーターを選任**。
- STEP②:選任されたサポーターは、地方公共団体などの組織の**要請に応じて必要な支援を実施**。

